

研究促進のために依然として企業的經營に依拠せざることを得ないといった事態は、國家としては決して自慢になることではないのである。

この意味で科學的研究機關は、むしろその簇出を歓迎せねばならぬのであるが、たゞそれが今のインフレ的臭氣をもつ產物たることだけは十分に警戒されねばならぬ。といつても、問題はたゞ科學的研究所として的確な組織をもち、正しき研究對象を捉へてゐるかどうかにあるのであつて、例へばそれが官廳の機關たることは何ら差支なしとしても、組織そのものが所謂お役所風に事務的なものであつてはだめである。會長といつた地位に何時變るか分らぬ次官を置き、委任の研究官何人といつたやうな仕組で、果してよく腰を据え、一貫して、今日直に役に立たない根本的な問題に研究の情熱をそよぎ得るかどうか。研究員には研究に生涯を没頭するていの覺悟が要り、會長その他幹部もこの研究組織の運用に深く打込むだけの態度と學識とを備へてゐるのでなければ、研究の結果に大なる權威を期待することは難かしい。殊に人口問題の研究は、決して單なる人口問題に終り得ないのであつて、廣汎に經濟的な問題に亘らざれば何らの歸結を見るを得ないのであるから、その出發點において旺盛なる科學的精神のこもつた雰圍氣を必要とする。研究所設立に當り、折角佛を刻んで魂を入れるの努力を要望したいのである。(昭和十四年八月十八日東京朝日新聞社説)

## 警視廳衛生部及東京帝國大學醫學部附屬醫院分院の妊娠狀態調査及出産調査

昭和十四年十月、警視廳衛生部及東京帝國大學醫學部附屬醫院分院は共同調査を以て妊娠狀態調査を行つた。其の概要は以下の如くである。

### 妊娠狀態調査要綱

#### 一、被調査者の範囲

- 1 被調査者は有夫の婦にして現に夫と同棲中（内縁關係を含む）の者なること出征中又は商用等の爲夫旅行し居る者等は該當者として調査すること
- 2 被調査者は年齢二十歳以上四十五歳迄のものなること
- 3 被調査者の選定は婦人會幹部と警察署と協議の上にて決定するものとす

#### 二、調査割當數

##### 1 工業地域として

荒川區の内 三河島署管内

南千住署管内

二〇〇人

本所區の内 太平署管内

尾久署管内

二〇〇人

向島區の内 寺島署管内

二〇〇人

二〇〇人

城東區の内 鵜戸署管内

二〇〇人

##### 2 商業地域として

神田區の内 錦町署管内

西神田署管内

二〇〇人

浅草區の内 藏前署管内

二〇〇人

二〇〇人

3 小住宅地域として  
澁谷區の内 代々木署管内 二五〇人  
世田谷區の内 玉川署管内 二五〇人  
豊島區の内 池袋署管内 二五〇人  
巢鴨署管内 二五〇人

4 中流以上の住宅地域として  
杉並區の内 杉並署管内 五〇〇人  
荻窪署管内 五〇〇人

#### 三、調査地域並被調査者選定標準

##### 1 工業地域

(イ) 環境的に觀て小工場と民家と入り交りて所 在する地域を選ぶこと

(ロ) 被調査者は前記地域内に居住する者より選び其の生業關係は問はざるも出來得れば工場勤務層の家庭より選ぶこと

##### 2 商業地域

(イ) 環境的に觀て商店櫛比の地域を選ぶこと

(ロ) 被調査者は出來得れば商家にして店舗と住居と同一にせる家庭より選ぶこと

##### 3 小住宅地域

(イ) 環境的に觀て商店街より相當距る純然たる住宅地を形成せる地域を選ぶこと

(ロ) 被調査者は前記住宅地域内に居住せる官公衙、會社、商店等の俸給又は給料に依り生活し居る家庭より選ぶこと

##### 4 中流以上の住宅地域

住宅、建物敷地庭等に相當の餘裕を有する所謂邸宅居住層の家庭より選ぶこと

#### 四、調査上の注意事項

- 被調査者の選定に當りては子供の有無に拘らず選定すること（特に子供ある家庭のみを選ばざる

4  
調査に際しては被調査者に對し趣意を説明し、其の理解と協力を得るに努め以て記入の正確を期すること

2 被調査者に於て記入不能  
て代筆するも差支なき」と

- 同一家屋内に被調査資格者多數同居する場合例へば兄弟二夫婦居住する等の場合は各二夫婦を別に調査するも差支なきこと

## 五、調查方法

- 1 2 調査は家庭衛生婦人會員により實施す  
調査に際しては調査者一人にて約十二人程度を  
分擔し調査票を配布し期日を定め取扱うこと

調査票下欄調査番號欄には名簿と同一の番號を  
附し且つ調査擔任者の捺印を爲し置くこと

- 6  
本調査実施に當りては支部會を招集し各署衛生主任より調査細綱に關し説明せられたきこと

東京帝國大學醫學部附屬醫院分院  
學生規範

人口動態調査に就ての考察

右の調査の主要結果を掲ぐれば次の如くである。

第一表 各階層に於ける結婚年齢

結婚年齢	中級の住宅群		小住宅群		商業群		工業群	
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
一四歳	—	—	—	—	0·1	—	0·1	0·1
一五歳	—	—	1	0·1	11	1·0	1·7	1·7
一六歳	—	—	14	1·4	111	11·9	11·1	11·1
一七歳	—	—	14	1·4	50	5·6	6·0	6·6
一八歳	—	—	107	1·1	48	4·8	6·0	6·7
一九歳	—	—	100	1·0	43	4·3	6·6	6·7
二十歳	—	—	103	1·0	49	4·9	6·7	6·7
二十一歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十二歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十三歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十四歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十五歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十六歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十七歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十八歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
二十九歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三十歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三一歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三二歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三三歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三四歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三五歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三六歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三七歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三八歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三九歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三四歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三四四歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8
三四五歳	—	—	101	1·0	49	4·9	6·8	6·8

## 第一表 結婚より第一子分娩までの期間

種別	中級住宅群				小住宅群				商業群				工業群			
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
一年以下	三三三	三三六	三五三	三〇〇	三一	三八〇	四二七	四三四	三一	三一	三九九	四一四	三八六	三八五	三一	三一
一一二年	三八〇	三一〇	三七三	三〇一	三〇	三一	三九九	三九九	三〇	三〇	三一	三一	三一	三一	三一	三一
一一三年	一〇七	一一八	一〇五	一一六	九五	一一六	一一四	一一四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一四年	四二	四六	四一	四八	四一	四八	四一	四一	四一							
一一五年	一〇	一一一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一六年	九	一〇	一〇	一〇	六	〇七	九	〇九	九	九	九	九	九	九	九	九
一一七年	八	〇九	八	〇九	三	〇四	八	〇八	三	〇四	三	〇四	三	〇四	三	〇四
一一八年	六	〇七	四	〇五	二	〇一	五	〇五	二	〇一	五	〇五	五	〇五	五	〇五
一一九年	七	〇八	四	〇五	一	〇一	一	〇一	一	〇一	一	〇一	一	〇一	一	〇一
九年以上	三	〇三	六	〇四	六	〇七	一	—	一	—	一	—	一	—	一	—

八一九年	六	0.3	五	0.1	九	0.4	四	0.1
九一一〇年	10	0.5	四	0.1	五	0.5	三	0.1
一〇年以上	11	0.1	六	0.1	一	0.05	三	0.1

第四表 各階層に於ける年齢階級別妊娠率未妊娠死産流早産

小兒死亡率

中級住宅群

年齢別	人員	妊娠回數率	妊娠率	未妊娠	%死産	%自然流	%早産	%人工流	%小兒	%死亡
二〇—二五歳	堺	堺	堺	堺	一〇	二六九	一	一	二	二七
二六—三〇歳	堺	堺	堺	堺	七	四〇八	二	二六	一	二四
三一—三五歳	堺	堺	堺	堺	一〇	三一四	三	二四	一〇	二四
三六—四〇歳	堺	堺	堺	堺	一〇	二四八	三	二四	一〇	二四
四一—四五歳	堺	堺	堺	堺	一〇	一九四	三	一九	一〇	一九

小住宅群

年齢別	人員	妊娠回數率	妊娠率	未妊娠	%死産	%自然流	%早產	%人工流	%小兒	%死亡
二〇—二五歳	堺	堺	堺	堺	一〇	二〇二	一	一〇	一〇	一〇
二六—三〇歳	堺	堺	堺	堺	七	二一四	二	二一	一〇	二一
三一—三五歳	堺	堺	堺	堺	一〇	二〇一	三	二〇	一〇	二〇
三六—四〇歳	堺	堺	堺	堺	一〇	一九八	三	一九	一〇	一九
四一—四五歳	堺	堺	堺	堺	一〇	一九四	三	一九	一〇	一九

早婚晚婚別出生速度の比較

階級別出生速度の比較

(市原博士著者) (櫻井草)

文化と出産力

期間	妻の第一子出生		階級別產兒數	
	年齡別產兒數	年齡	農山村	純農村
(早婚)(遅婚)	人	人	教員	女子大學生
10—15年	0.5	0.5	0.5	0.5
15—20年	0.5	0.5	0.5	0.5
20—25年	0.5	0.5	0.5	0.5
25—30年	0.5	0.5	0.5	0.5
30—35年	0.5	0.5	0.5	0.5
35—40年	0.5	0.5	0.5	0.5
40—45年	0.5	0.5	0.5	0.5
45—50年	0.5	0.5	0.5	0.5
50—55年	0.5	0.5	0.5	0.5
55—60年	0.5	0.5	0.5	0.5
60—65年	0.5	0.5	0.5	0.5
65—70年	0.5	0.5	0.5	0.5
70—75年	0.5	0.5	0.5	0.5
75—80年	0.5	0.5	0.5	0.5
80—85年	0.5	0.5	0.5	0.5
85—90年	0.5	0.5	0.5	0.5
90—95年	0.5	0.5	0.5	0.5
95—100年	0.5	0.5	0.5	0.5

註 第一子出生兒をひとし、以後を計算す。

二十一—二五歳	199	0.05	211	八四	七	0.5	三	二七	二	一四	七	九三
二六—三〇歳	199	0.11	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七
三一—三五歳	199	0.15	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七
三六—四〇歳	199	0.15	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七
四一—四五歳	199	0.15	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七

工業地域居住者群

二十一—二五歳	199	0.05	211	八四	七	0.5	三	二七	二	一四	七	九三
二六—三〇歳	199	0.11	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七
三一—三五歳	199	0.15	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七
三六—四〇歳	199	0.15	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七
四一—四五歳	199	0.15	201	四一	九	三六	10	一〇	三	三一	三	四七

尚ほ併せて、出産調査を行つたが其の調査票は次頁の如くである。

## 出產調査力一

署名  
姓名  
昭和年月日  
1946年1月1日  
新井一郎

本 人 夫	生年月日	明治	年	月	日
		大正			
本 人 夫	再婚ナニヤー	初婚年齢			
夫	離別時年齢				

本邦ノ主ナル病氣

通　書　總　解

凡テヲ記入スル事

後者ノ場合ハソノ理由

粉ノ何レニヨツタカ

死亡ノ際、病名ト年

## 九 表面下欄ノ記入例ヲ參照サレタシ

九 装面下機ノ記入例ヲ察照サレタシ